

# 韓国の大学生が能楽体験



能舞台をすり足で歩く参加者

福山JC「日本文化体験研修」で

## 舞や謡にもチャレンジ

韓国の威徳大学校（慶州市）から福山を訪れていた大学生の一行が三日、市内で能楽体験をした。

同大の一行は福山青年会議所（原田憲太郎理事長）による「日本文化体験研修」で先月二十八日に来日していた。

能楽体験は福山市光南町の喜多流大島能楽堂であり、同大日本語学科で日本語を学ぶ大学一年生の学生九人らが参加した。

講師は喜多流能楽師の大島衣恵さんらがつとめ

た。ビデオ鑑賞で能楽の基本的なことを学んだり、能面についての説明を受けたりした。また、能の代表的な演目の一つ「狸々（しろうじょう）」の謡にも挑戦した。大島さんの手本に続き、学生は大きな声を出して謡の体験をした。

続いて実際に能舞台上がり、笛や小鼓、太鼓の体験もした。初めての体験とあって始めのうちは戸惑い気味だったが、講師から「笛は強い息で吹くように」などの指導を受けると見事に音色を奏でていた。さらに舞も体験し、扇を手にすり足で舞台を歩いた。

一行は来福してから鶴の浦を訪れたり、一般市民らとの交流会などを体験した。四日に福山を離れ、五日に帰国する予定。